

ヒメマルカツオブシムシ

保健所と合同でホシチョウバエの発生状況調査を行いました。調査を終えて、保健所に帰ると、保健所の担当者が害虫の鑑別作業を行っていました。見るとヒメマルカツオブシムシのようでした。ヒメマルカツオブシムシは、翅（はね）の模様が特徴的なことから、比較的鑑別が容易です。そのため、保健所から衛生動物部門に鑑別依頼が少ない種類です。担当者をお願いして、標本を分けてもらいました。同じ時期に複数の害虫駆除業者から虫の鑑別依頼がありました。いずれも4月中旬のことでした。

ヒメマルカツオブシムシのライフサイクル

ヒメマルカツオブシムシは、年間1世代です。今回の事例で分かるように成虫の京都市域での出現時期は、4月中旬です。羽化したのち、交尾、産卵し、屋外に飛び出し、再び産卵することは、ないそうです。また、産み落とされた卵は、約1箇月で幼虫になり、その後、繊維質を加害しながら成長し、翌年の春にサナギになります。

食品害虫

カツオブシムシ科の仲間は、本来肉食性です。特に乾燥した食品を加害します。ヒメマルカツオブシムシの幼虫は、絹、羊毛などの動物性繊維を好んで加害することで有名です。また、食品害虫としての一面もあります。名前のとおり、幼虫は、乾燥動物質のかつお節やにぼし、変わったところでは、昆虫の乾燥標本に発生することもあります。更に、ヒメマルカツオブシムシは、他のカツオブシムシ科の種類にない、植物質だけでも成長もできる食性もあります。なお、成虫は、繊維を食害することはありません。

キク科植物

初春から初夏のころまで我が家の玄関のプランターでは、ノースポールという名前の園芸植物が満開です。特に手入れもしないのですが、季節が来れば芽を出し、新しい土に移植すると、よく育ちます。植物のことは詳しくありませんが、このノースポールは、どうみてもキク科の植物です。しかも、白い花です。ヒメマルカツオブシムシが訪れる花の条件に一致します。ヒメマルカツオブシムシが来ているのではないかとノースポールを観察しました。すると文献に書かれているとおり、たくさんのヒメマルカツオブシムシが飛来してきていました。10数匹が確認できました。5月初旬のことでした。5月から8月ころまで訪花が続きます。機会があれば、この時期のキク科の白い花を観察してみてください。一生懸命花粉を食べているヒメマルカツオブシムシが確認できるかもしれません。

甲虫類を分ける一つの形質

甲虫類の種類を分けるときに「上から見て、頭部が見えるか見えないか。」が重要な鑑別点になることがあります。ヒョウホンムシ科、シバンムシ科、ナガシクイムシ科、カツオブシムシ科などの種類は、上から見ても、頭部は胸部の下に隠れて見えないグループです。ところが、保健所から送られたヒメマルカツオブシムシは、上から見て頭部が明瞭に確認できました。それには、訳がありました。この画像の個体は、生きていたのです。生きていたときには、頭部が前方に出ていることを初めて知りました。

カツオブシムシ科成虫の特徴

上述のほかにも、触角の先端節が棍棒（こんぼう）状に膨らむこと、後脚の腿（たい）節を基節に収納できることなどは、カツオブシムシ科の代表的な特徴です。



保健所から頂いた標本



訪花している
ヒメマルカツオブシムシ



生きたヒメマル
カツオブシムシ

頭部が上から見えている



頭部が上から見えない

死んだヒメマル
カツオブシムシ



棍棒（こんぼう）状の触角



腿節に収納された後脚

胸部に収納された触角